

令和4年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成	
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。	今年度の重点目標 1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進

評価項目	具体項目	年 度 当 初			中 間 評 価	
		現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	○授業評価アンケート 「わかりやすい」 90.7% 「先生の熱意を感じる」 92.1% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置により、落ち着いた学習環境を保つことができている。 ○ICT活用研修会を実施する等、令和4年度1年次生の授業からChromebookを使用するための準備を行った。 ○パフォーマンス評価の実施に向けて準備を始めた。	○わかる授業を推進 授業評価アンケート 「わかりやすい」 90%以上 「先生の熱意を感じる」 90%以上 ○個に応じた学習指導の実施	○日常の授業公開の実施 ○授業評価アンケートを活用した授業改善 ○各教科でのルーブリック作成とパフォーマンス評価の導入 ○ICTの積極的な活用 ○米東サポーターの活用	○授業の公開は随時行った他、6/27～7/1を公開週間とし、授業を見学して、授業改善への意識を高めた。 ○1学期末に各教科で授業アンケートを実施した。「わかりやすい」96.6%、「先生の熱意を感じる」97.1%だった。 ○ルーブリックを活用した授業実践とパフォーマンス評価を導入した。 ○1年次生の授業でクロームブックを用いた授業を開始した。7月には教職員対象のICT活用研修会を実施し、クロームブックをはじめ、授業でのICTの効果的な活用を努めている。 ○米東サポーターや特別支援教育支援員は、授業サポートを計画的に行って生徒の状況を細やかに把握し、クラス担任・授業担当者等と連携を図っている。	A
	特別支援教育の充実	○スクールカウンセラーによる個人面談を実施し、生徒への適切な対応に繋げている。 ○SCとのコンサルテーションを定期的に実施しているほか、生徒理解研修会、QU研修会、日々の夕礼・終礼等で、生徒の状況、対応について職員間で共有しケース会議も行っている。 ○外部機関と連携し、生徒の進路選択・進路決定に向けて、サポートも行っている。 ○不登校傾向の生徒について、SCによるコンサルテーションを実施したほか、SSWや市の子育て支援課と連携し、支援に努めた。	○教育相談体制、特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の充実 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員の有効活用	○全職員による生徒情報の共有並びに支援 ○SC、米東サポーター、SSWの積極的な活用 ○QUの有効活用 ○特別支援教育支援員の支援活動計画の作成 ○教職員の外部研修への参加推進	○日々の夕礼や終礼で生徒情報を共有した。必要に応じてSCやSSW、市の支援課、就労支援施設等と連携し個別支援を行った。 個々の相談が複雑化しており、教職員・保護者をはじめ関係機関との連携を一層強化したい。 ○年度当初及び必要に応じて、QU研修会等教職員対象の校内研修や情報交換会を行った。 ○特別支援教育支援員の支援活動計画を作成するとともに、校外研修を計画した。	A
	進路指導の充実	○3年次生に対し、4月からCAによる個人面談を実施した。 ○面接練習や個別指導等に全教職員が関わった。 ○就職内定率100%、進学決定率100%だった。 ○進路だよりの発行、ビジネスマナー講習会・地元企業／事業所見学・進路説明会および生活時間調査の実施によって、進路意識を高め、生活習慣を改善する者も見られた。 ○3年次生の進学希望者に業者テストを実施した。 ○保護者懇談では、1年次から積極的に進路の話をして、進路選択・進路決定に向け早い時期からの意識づけに努めた。 ○1、2年次生から進路に対する意識を高める必要がある。 ○CAによる定時制教職員対象の進路指導研修会を実施した。	○就職内定率及び進学決定率100% ○就職指導、進学指導の充実 ○進路意識の醸成	○HR、面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○ビジネスマナー講習会、地元の事業所・学校見学の実施 ○CAによる進路指導研修会、1・2年次生対象の進路説明会・進路面談の実施 ○進路決定者に対する事後指導の充実	○4月から定期的に進路面談を進め、キャリアアドバイザーによる個人面談も実施した。 ○ハローワークと連携してビジネスマナー講習会を実施し、個別指導も行った。 ○希望者対象に、授業時間外の個別指導（学習指導・面接練習等）も実施した。進学希望者は模擬試験を2回実施し、結果をもとに進路面談を行った。 ○進路だよりを1回発行した。 ○定通教育充実事業「地元の企業見学」を、進学希望者・就職希望者のいずれにも対応した「地元の事業所・学校見学」に拡充して実施した。 ○全員の進路決定に向け、引き続きサポートをする。	A
	キャリア教育の充実	○キャリア・パスポートを作成する際、対話をしながら過去の振り返りを行った。2回目の記入の際は1回目の記入の状況を見て、より取り組みやすいものに整えて実施し、自己理解に繋がった。 ○潜在的な進路希望を読み取るため、キャリア・パスポートを活用した。 ○将来を見通すことができず不安を抱えた生徒がいる。	○進路意識の早期啓発 ○キャリア意識の醸成	○キャリア・パスポートの活用 ○生徒会企画や定通教育充実事業等による地域との連携	○キャリア・パスポートについては、4月に1年次生を対象としてオリエンテーションを実施し、キャリアプランについて意識づけを行った。10月中旬以降に本年度1回目の振り返りを行う。 ○7月中旬に、令和4年度ふるさとキャリア教育充実事業として新たに「語り人@勝田町」を実施した。地域で活躍されている方々から貴重なお話を伺い、進路選択・進路決定に対する考えを深めることができた。	B
2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○各部活動顧問と連携し、スムーズな部活動運営を行った。 ○生徒会執行部会を開催し学校行事の活性化を図った。 ○生徒の主体的な活動を積極的に取り入れ、その取り組みの一部は学校だよりや学校HP、新聞・テレビ等の報道各社を通して地域に発信した。	○生徒会活動や部活動、学校行事への生徒の主体的な取組の推進	○生徒の主体的な活動のための内容の工夫 ○学校HPの更新回数を増やす ○生徒会役員との連携強化	○週に1度執行部会を開き、生徒会行事の企画・運営を行った。会が持てない時は、Google Classroomを活用し、相談・連絡等を行った。 ○生徒会で、新たな行事を計画した。皆で完成させるもの・楽しむことをテーマに準備を進めた。 ○学校HPの更新が1学期はあまりできなかった。2学期は少しでも増やしたい。 ○鳥取県定時制通信制高等学校総合体育大会に向けて、部活動週間を設定し、新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起を細めに行いながら練習・準備に励んだ。バドミントン部女子2名が県選抜チームのメンバーに選出され、全国大会に出場した。	B

2 豊かな人間性の育成	社会で役に立つ体験的活動の実施	○コロナ禍においても感染予防対策を講じ、アウトドア体験・地元の資源体験を実施した。 ○地元の資源体験は、新たに「ビザ作り・大山寺周辺の散策」を実施した。	○地域に根ざした教育活動 ○体験的な活動による豊かな心の育成	○体験活動先との連携強化 ○新たな体験先の開拓	○本年度の定通教育充実事業として、7月にアウトドア体験（1・2年次生カヌー体験、3年次生乗馬実習）を実施した。豊かな自然に触れ、級友と親交を深めた。活動の様子は学校のHPやパンフレット等で紹介している。 ○行事の際は、事前の健康観察や救護体制をつくる等、生徒の健康状態に留意して対応できる体制を整えた。 ○今後は、定通教育充実事業として「地元の資源体験」・「自然体験スキー実習」・「郷土食体験」・「テーブルマナー講習会」等の体験活動を実施する予定である。	B
	人権感覚豊かな生徒の育成	○2度の人権教育講演会を実施し、このうち1回はコロナ禍にあつてオンラインで実施した。 ○生徒は話し合い活動により自己尊重の体験をしている。	○人権LHRの充実 ○各領域での人権意識の育成 ○共に安心できる集団の形成	○人間関係作り、コミュニケーション能力育成のための教材の工夫	○9月に人権教育講演会「男女共同参画社会について」を実施した。講演会後に振り返り（感想提出・各学年で話し合い）を行って、他の人の考えに触れ、思いを分かち合った。 ○2学期（令和5年1月下旬）に、人権教育講演会「あいサポート運動」を実施し、同じ週に公開LHRを実施する予定である。	B
	社会参画できる生徒の育成	○高等学校課事業や定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○授業や講演会等において、マナーについての理解を深めている。	○マナーを守り居心地の良い集団の形成 ○地域を理解し、地域の力になろうとする意識の育成	○新たな事業による体験的活動の充実	○9月に自己実現力養成「職」事業として「新聞の読み方講演会」を実施し、作業をしながら新しい知識に触れる機会となった。今後はより細やかな指導を行うために、対象学年を絞って実施することも考えたい。 ○授業や講演会において、時間を守る・話を聞く等、社会人として求められるマナーについて、自ら動くことのできる生徒を増やしたい。 ○授業や各行事において自分の長所を伸ばすとともに、自分と異なる意見にも耳を傾けられる生徒を増やしたい。 ○「地元の資源体験」では、新たな体験先（松江方面；松江城・堀川めぐり）を計画して準備を進めている。地元の歴史や文化に触れることで、郷土の誇りや郷土愛を育みたい。	B
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○生徒は基本的には落ち着いた学校生活を送っている。 ○一部の生徒に規範意識の低さが見られるため、指導を継続する必要がある。 ○職員間で生徒情報を交換、共有している。 ○始業時・終業時のあいさつをきちんとできる生徒がいる。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○皆勤及び精勤15名	○教職員間の情報交換の実施 ○生徒への日常の声かけの徹底 ○規律ある学校生活の徹底 ○保護者との連携	○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っているが、一部でなかなか学校に向き合えない者もいる。始業時間の徹底と学校規則の遵守について、引き続き全教職員で指導にあたりたい。 ○指導事案が前年度より増えた。教職員で情報を共有し保護者や地域の方と連携し、件数は減らしていきたい。 ○マスクの着用や熱中症対策のための水分補給の声かけを、継続して行うことができた。 ○1学期末の皆勤および精勤は、12名だった。	B
	家庭との連絡の緊密化	○欠席や遅刻について、学校に連絡する習慣が身に付いており、無断欠席はほとんど無いが、欠席・遅刻・早退が続く生徒に対して保護者との連携を強化する必要がある。 ○あいさつや言葉遣いに対して、意識の高い生徒がいる一方で、スマートフォンが手放せない生徒もいる。	○欠席の多い生徒に対する支援の見直し ○保護者への学校理解の促進	○学校だよりや学校HPによる学校の教育活動の発信 ○家庭連絡や保護者面談による連携	○生徒の欠席や早退時等、必ず家庭連絡を行い、生徒の様子について保護者と情報を共有した。 ○必要に応じて、保護者面談や家庭訪問を行った。 ○緊急連絡はGoogle Classroomも利用した。学校だよりや学校HPで、定時制の教育活動を発信した。	B
	【体】育、【食】育の推進	○定時制夜間給食や「食」のアンケート、「食」の講演会において「食」に対する理解を深めている。 ○鳥取県定時制通信制総合体育大会や鳥取県生徒会連盟大会、保健体育の授業の他、新たに、生徒会企画で定時制大運動会を実施した。	○健康に対する意識の向上 ○日常の生活時間の見直し	○「食」のアンケートの実施 ○生活時間調査の実施 ○定時制夜間給食の実施	○「食」及び「睡眠」についてのアンケートを実施した。 ○定時制夜間給食は、学校行事に合わせて食事を提供している。食べることを通じて食に対する意識を高め、「3食とる」「栄養のバランスを意識する」等、食生活の改善につなごう。	B
	よりよい学習環境の整備	○ゴミの分別に取り組んでいる。 ○清掃活動は主に7月・12月・2月に実施した。 ○学習室のゴミ箱を生徒自ら管理させ、ゴミは各自で持ち帰る指導を行った。 ○日頃は当番制で、行事の日は教職員で一斉に使用教室の消毒を行っている。	○校内環境の整備 ○LHRの時間に全生徒と教員で清掃活動 ○日頃の消毒作業	○ゴミの分別や減量化についての指導実施 ○日頃の清掃活動と消毒作業	○ゴミの分別や減量化について、指導を継続中である。 ○日頃の清掃活動と消毒作業は協力して行っている。	B
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○コロナ禍にあつて、一部予定どおりに実施できなかった事業もあるが、実施時期や実施内容を再検討してできる範囲で実施した。 ○主査と副査とが連携しながら分掌業務を行っている。 ○長期休業中は夕礼・終礼を行わない期間とした他、リフレックス週を設定した。 ○教育目標の達成に向け、全教職員が一層連携して取り組みたい。	○円滑な業務の遂行	○計画的な事業の実施 ○分掌内における業務分担の見直し	○これまでの事業は、概ね計画どおりに実施した。 ○進路に関わる2つの行事は、本年度は進路週間を設定して7月に実施した。進路試験に向けた実際の準備の時間をより確保したい。 ○分掌内の業務分担は、調整によって少し改善されたが、緊急時の対応にまだ改善の余地がある。 ○9月に常勤者全員が定時退勤日を設定した。 ○夏季休業中は夕礼・終礼を行わない期間とした他、9月の最終週をリフレックス週とし、有給休暇取得の促進を図った。 ○11月はノー会議月間にする予定である。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要